



ローマ帝国のたそがれと アウグステイヌス

磯部

隆

著

(いそべ・たかし氏は名古屋大学名誉教授)

古代末期の神学的巨人の生涯を、帝国の衰亡史と重ねつつ、弟子アリピウスの述懐を通して描いた壮大な歴史小説。

「ローマ帝国末期という時代、ひとは現在の閉鎖性を突破しようとした。そうした時代にあウグステイヌスが現れたのは偶然ではないし、またその時代それじたい探究に値するだろう。この時代の歩みを、時代を代表する人びとを中心にたどり、できれば彼らの内面にも視線を投げてみたい。」(本書より)

関連する書籍

磯部 隆

ローマ帝国と
イエス・キリスト

イエスは、新しく切りひらいた精神の地平にイスラエルを導こうとした。彼の死後、弟子たちは帝国を思想のうえで掌握して、世界史の展開経路を大きく切りかえてゆく。
四六判 2600円

R・スターク
穂田信子訳

キリスト教と
ローマ帝国

小さなメシア運動が帝国に広がった理由

短期間になぜキリスト教は伝播したのか？ 社会学的分析手法を用いて浮かび上がったその理由とは？ 初代教会の社会的ネットワークに着目した話題作。待望の邦訳。
四六判 3200円

12月15日発売

◆四六判・350頁・定価2200円

2018年をみことばと共に

新教出版社のよりすぐりの聖書日課



この日言葉をかの日に伝え W・リュティ小説教一日一章

W. リュティ著 井上良雄訳

バルトやトゥルナイゼンの盟友であり、20世紀を代表する名説教者の、アドベントから始まる力強く美しい小説教を、井上良雄氏の名訳で贈る。

B5変形判 684頁 6300円



主のよきかに守られて ボンヘッファー一日一章

村椿嘉信訳

その全著作から、御言葉への深い洞察に基づく慰めと希望に溢れた言葉を精選して366日に配列。一日一日を恵みの喜びに生きる力を与える。

四六判 684頁 5000円



信じつつ祈りつつ ボンヘッファー短章365日

D. ボンヘッファー著 小池創造訳

信仰と行動とが渾然一体をなす珠玉の告白的文章から短章366篇を選ぶ。み言葉を、日々祈りつつ戦う力の源泉とするための聖想集。

四六変判 136頁 1400円



御言葉はわが足のともしび 日々に聞く聖書と祈り

蓮見和男著

毎日、聖書を読み、み言葉に聞き、祈るための1日1ページの小説教と祈り366篇。旧新約全体に目配りがきき、巻末に問題別、教理別索引を付す。

四六判 420頁 3500円



祈りの花束 聖書から現代までのキリスト者の祈り

V・ズンデル編、中村妙子訳

聖書の祈りに始まり、教父、宗教改革者、近現代の哲学・文学者、キング牧師、マザーテレサらの祈り。各人の簡潔な伝記と肖像、イラスト付き。

B4変型 126頁 3000円

栗林輝夫著／西原廉太・大宮有博編

アメリカ現代神学の航海図

フエミニスト神学、ウーマニスト神学、アジア系アメリカ神学、ポストモダン神学、ポストリベラル神学、修正神学、プロセス神学等々、複雑かつ活発な運動を絶やさないアメリカ現代神学の鮮やかな見取り図。〔栗林輝夫セレクション〕2。

◆A5判・予価5500円

住田博子著

カルヴァン政治思想の形成と展開

自由の共同体から抵抗権へ。ジュネーブにおける国家教会体制の政治学的・歴史的分析から始め、カルヴァン神学における政治の論理を内在的に分析し、抵抗権へと至る政治思想の形成と展開を綿密に跡づけた俊英の力作。

◆四六判・予価3000円

一色哲著

南島キリスト教史入門

(仮題)

琉球王国の最大版図とほぼ重なる「南島」のキリスト教の歴史を丹念な調査と重層的な視点から追究した力作。

◆四六変判・予価2300円

ヨアヒム・エレミアス著／南條俊二訳

イエスの譬え話の再発見

(仮題)

金字塔的名著『イエスの譬え話』をより分かりやすく英語圏で紹介したいとの著者の願いから生まれた英語版。

◆四六判・予価3500円

● 11月に出版の本と雑誌

第二コリント書 8—9章

佐竹明著

〔現代新約注解全書〕

最高水準の第二コリント書注解の刊行開始。パウロはなぜエルサレム教会への献金運動を進めたのか。彼の福音理解の根幹を示す重要箇所の詳細な注解。

◆A5判・本体7000円

いのちの水

トム・ハーバー作／中村吉基訳／望月麻生絵



かつては誰もが飲めた水だったのに……。聖なるものを囲い込もうとする宗教の宿痾を痛烈に批判した寓話を、達意の訳文と美しい消しゴム版画で贈る。

◆B6判・本体1500円

現代に生きる教会

森野善右衛門著

対話・共生・平和

現代に生きる教会のあり方を模索し続けてきた牧師・神学者の、教会の本質論から実践的な問題提起にわたる近年の論考を集成。

◆B6判・本体1500円

福音と世界

◆税込635円

12月号

特集 ポピュリズム・デモクラシー・キリスト教

寄稿者：酒井隆史、水島治郎、塩尻和子、ゾンターク・ミラ、原田健二郎、吉松純／梁賢恵、香山洋人、中村うさぎ、高井ヘラー由紀、芦名定道、内田樹、辻学、佐藤優ほか

● 評判になっていくアメリカのスリラー映画『ゲットアウト』を観ました。主人公の黒人男性は、パートナーの白人女性の実家にはじめて遊びに行くのですが、そこで目にしたのは裕福な白人家族と黒人の使用人の姿。さらに翌日、白人ばかりが集うパーティーに誘われたかれは、やがて想像を絶する恐怖に巻きこまれていくのです。「私はオバマに投票した」と胸を張る白人ミドルクラス・リベラル層の心性になおも巣くう白人優越意識と偏見、それにたいする黒人の怒りと絶望感に根ざした分離主義への強烈な衝動が、全編をとおして見事に描きだされていると感じました。

● 近刊『栗林輝夫セレクション2 アメリカ現代神学の航海図』の校正を進めながら、わたしはこの映画のことを思いだしていました。同書でも、人種主義への視座をいかにもつかがアメリカ神学ではつねに課題となることが指摘されていたからです。近年の社会理論では、リベラルな政治文化と市場原理主義が結託することで、富んだマイノリティは寛容に処遇されるいっぽう、貧しいマイノリティへの排除はいっそ

う激化するといった分断現象も指摘されています。これにたいする神学的応答は、急逝した著者のあとを継ぎ私たちが取り組むべき課題であるでしょう。(堀)

● 『日々の聖句』(ローズンゲン)を愛用している方は多いと思います。毎年、365日それぞれの日のために旧約聖書からくじで聖句が選ばれ、さらにそれにふさわしい新約聖書の言葉が配されています。毎日、きょうはどんな言葉が与えられるのだろうかという期待があり、今日この聖句が与えられた意味は何だろうと思いをめぐらす楽しみがあります。また週の聖句、月の聖句、年の聖句も選ばれています。2018年の聖句は黙示録21章6節「渴いている者には、わたしが命の水の泉から備なしに飲ませよう」。実はこの聖句にぴったりの本が11月に出版しました。本来「備なしに」飲むことができた水が次第に困い込まれていく様子をトム・ハーバーが寓話にした『いのちの水』という美しい絵本です。早くも大きな反響を呼んでいます。2018年の「年の聖句」の意味を深く尋ね求めるためにもお勧めの本です。(小林)

福音と世界

2018年
1

A5判・80頁・定価635円・送料70円
年間予約購読料(送料共) 8460円

特集・キリスト教と近代日本

「明治150年」を考える

近代日本の形成と教会史 —— 山口陽一

人権法制化に果たしたキリスト教の役割 —— 森島 豊

プロテスタント・キリスト教と近代日本の

ジェンダー・セクシュアリティ —— 小檜山ルイ

キリスト教と近代文学の作家たち —— 勝呂 奏

明治の道徳哲学とキリスト教 —— 清水正之

アジア・キリスト教協議会(CCA) 六十周年における「アジア宣教会議」……藤原佐和子

【新連載】

地のいと低きところにホサナ1……ブレイディみかこ

【連載より】

◆福音の地下水脈3……末井 昭

◆はじめての台湾キリスト教史10……高井ヘラー由紀

◆現代神学の冒険16……芦名定道

◆聖書とわたし22……宇都宮健児

◆新約釈義 第一テモテ書23……辻 学

◆レヴィナスの時間論34……内田 樹

◆詩篇の思想と信仰151……月本昭男